2023～ 生活困窮者支援と貧困研究	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	阿部 裕二	

■授業のテーマ

貧困と低所得の意味を踏まえながら、多様化・複雑化する対象者に対する支援の方法を考える

■授業の目的

貧困（未就労、低所得、失職、借金、税・社会保険料滞納）とその固定化に対する支援について学ばせる。

■授業の到達目標

労働問題及び格差等の背景と実態を把握し、制度等を活用しながらソーシャルワークを展開できる。

■授業の概要

現代社会において、貧困・低所得といっても一様ではない。貧困概念の拡大を踏まえ、現代の貧困・低所得の現状とその原因・背景を理解するとともに、各種自立に向けた支援の実際について検討する。その際、多職種・多機関の連携を視野に入れながら進める。

■在宅学修

（1）レポート課題

課題 1	格差の意味や多様化する貧困概念の拡大を踏まえ、現行の支援の諸施策の概要と対応の限界について述べなさい。	【提出期限】 ☑ 対面授業１週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 （　　）
課題 2 （事後課題）	スクーリングにおいて取り上げた貧困・生活困窮者の「世帯」を一つ取り上げ、ソーシャルワーク・アプローチによる支援の枠組みと支援の際の留意点について述べなさい。	【提出期限】 ☐ 対面授業後１ヶ月以内 ☑ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 （　　）

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題１・２に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

（2）アドバイス

課題 1 アドバイス

格差にはさまざまな格差が存在するが、格差の根底には「貧困・生活困窮」があることを理解するとともに、絶対的貧困から拡大する貧困概念の把握が重要である。その上で、ライスセーフティネット（第３のセーフティネット）に位置づけられる生活保護制度など、重層的な生活支援システムを再整理し、これらシステムの限界についても考察することが肝要である。

課題 2 アドバイス

スクーリング（対面の演習）では「高齢者、ひとり親、傷病・障害者、住所不安定・ホームレスなど」の世帯を取り上げ、それぞれの世帯について、制度論およびソーシャルワーク・アプローチによる支援

の実際と活用を、自身の実践に照らし検討した。そのうちの１つの世帯を取り上げて、ソーシャルワーク・アプローチによる支援の枠組みと支援の際の留意点について自身の考えを述べること。

（３）在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容（・キーワード）	学びのポイント
1	格差と拡大する貧困概念に関する理解	・格差 ・絶対的貧困 ・相対的貧困、相対的剥奪 ・社会的排除 ・ケイパビリティの欠如	各種格差と多様な貧困の概念を整理するとともに、それぞれの特徴と関係性について学ぶ。
2	貧困状態にある人の生活実態と生活環境はどのようになっているのか	・高齢者世帯 ・傷病・障がい者世帯 ・ひとり親（母子）世帯など	なぜ貧困が生じるのか、そして経済的困難さは何をもたらすのかについて、リスターなどの理論を参考にしながら考察する。
3	社会は貧困をどのようにみているのか	・人権と尊厳の尊重 ・自己責任論と社会責任 ・貧困の文化論 ・スティグマ	貧困に対する価値観の変容についてまとめるとともに、人権と尊厳の重要性について再確認する。
4	貧困に対する諸施策にはどのようなものがあるのか①	・生活保護制度 ・ラストセーフティネット	ラストセーフティネットとして生活保護制度の仕組みと諸問題について、「最低生活の保障」と「自立の助長」の視点から理解する。その際、自立は「経済的自立」「社会的自立」「日常生活自立」など多様な意味があることも理解する。
5	貧困に対する諸施策にはどのようなものがあるのか②	・生活困窮者自立支援制度 ・第２のセーフティネット	第２のセーフティネットとしての生活困窮者自立支援制度について、「救貧」と「防貧」の視点から課題も含めて理解する。
6	貧困に対する諸施策にはどのようなものがあるのか③	・生活福祉資金貸付制度 ・公営住宅 ・無料低額診療事業 ・無料低額宿泊所	生活保護制度や生活困窮者自立支援制度以外の貧困に対する施策について、役割と関係性について学ぶ。
7	貧困に対する諸施策にはどのようなものがあるのか④	・ホームレスの自立の支援に関する特別措置法	日本でのホームレスの意味と、対策の一つとしての時限立法である「ホームレスの自立の支援に関する特別措置法」の内容と特徴について学ぶ。
8	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	・福祉事務所など	福祉事務所などの機能と現業員および査察指導員の役割と関係性について整理するとともに、現業員の福祉労働の二重性についても学ぶ。
9	「自立」と「自律」の視点から貧困に対する支援に考える。	・自立（就労自立・日常生活自立・社会生活自立） ・自律	「自立・自律」を支援するとは何か、ここでは「自立」と「自律」の相違と関係性を踏まえつつ、それぞれの支援の特徴について学ぶ。
10	生活保護制度を活用した支援の実際	・相談援助活動 ・自立支援プログラム	自らの実践のなかから生活保護における相談支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する（経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること）。
11	生活困窮者自立支援制度を活用した支援の実際	・自立相談支援機関 ・必須事業と任意事業	自らの実践のなかから生活困窮者自立支援制度における自立支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する（経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること）。
12	低所得者に対する支援の実際	・生活福祉資金貸付制度 ・公営住宅 ・無料低額診療事業 ・無料低額宿泊所	自らの実践のなかからたとえば、新型コロナウイルス感染症拡大により脚光を浴びた生活福祉資金貸付制度を通じた自立支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する（経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること）。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
13	住居不安定者・ホームレスの自立支援の実際	・ホームレスの定義 ・ホームレスの実態に関する全国調査	自らの実践のなかから生活不安定者・ホームレスに対する自立支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する（経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること)。
14	精神障害者に対する支援の実際	・社会生活適応訓練事業	自らの実践のなかから精神障がい者に対する自立支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する（経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること)。
15	多機関・多職種などの連携の重要性	・多機関・多職種 ・住民、企業との連携 ・地域づくり ・参加の場（居場所）づくり	まとめとして、貧困支援として多機関・多職種の連携の重要性を学ぶ。また、格差の意味や多様化する貧困概念の拡大を踏まえ、現行の支援の諸施策の概要と対応の限界について述べなさい（「レポート課題」の課題１に相当)。

■スクーリング

（１）スクーリング事前課題（学修時間目安：35時間以上）

「在宅学修15のポイント」の１～14までを学修し、それぞれ300～400字程度にまとめる（対面の演習の１週間前までに提出)。

（２）スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	戦後日本における貧困の「かたち」がいかに変容したのかについて講義する。受講生は、戦後における貧困の変容について理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	「ポーガムの貧困論」の視点から日本の貧困の実態について講義する。受講生は、その貧困の実態を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	「見える貧困」のみならず「見えにくい貧困」をとらえる視点の在り方について講義する。受講生は、「見えにくい貧困」をとらえる視点を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	「コロナ禍」における貧困・生活困窮者支援の多様化と限界について講義する。受講生は、「コロナ禍」が貧困へ及ぼす影響を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	「自立支援」という政策目標の功罪と「自律」との関係性について講義する。受講生は、自立支援と自律の関係を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	貧困・生活困窮者支援における「公的支援」と「民間支援」の関係性について講義する。受講生は、「公的支援」と「民間支援」の関係性を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	「高齢者世帯」について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用を、様々な参考文献から見られる事例又は自身の実践経験に照らし検討する。その際にはグループワークなどを用い、理解を深める。	対面の演習
8	「ひとり親世帯」について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用を、様々な参考文献から見られる事例又は自身の実践経験に照らし検討する。その際にはグループワークなどを用い、理解を深める。	対面の演習
9	「傷病・障害者世帯」について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用を、様々な参考文献から見られる事例又は自身の実践経験に照らし検討する。その際にはグループワークなどを用い、理解を深める。	対面の演習
10	「住所不安定者・ホームレス」について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用を、様々な参考文献から見られる事例又は自身の実践に照らし検討する。その際にはグループワークなどを用い、理解を深める。	対面の演習

（３）スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題２について、「アドバイス」の課題２を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講年度の最終レポート受付日までに提出。当年度の締切日を確認すること)。

■評価の方法・基準

・課題１レポート（15%）、課題２レポート（20%）
・スクーリング（事前課題15%、全スクーリング50%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

１）朝比奈ミカ、菊池馨実『地域を変えるソーシャルワーカー(岩波ブックレット)』岩波書店、2021年
２）阿部裕二監修『ケアマネ、生活相談員、生活支援員のための社会保障制度がわかる本』ナツメ社、2021年
３）阿部裕二責任編集『貧困に対する支援（第２版)』弘文堂、2026年
４）岩田正美『貧困の戦後史ー貧困の「かたち」はどう変わったのか』筑摩書房、2017年
＊５）金子充『入門　貧困論』明石書店、2017年
６）酒井正『日本のセーフティネット格差―労働市場の変容と社会保障―』慶應義塾大学出版会、2020年
７）佐藤康仁、熊沢由美『格差社会論　第３版』同文舘、2023年
８）「貧困研究」編集委員会編『貧困研究』(各号）明石書房
＊９）椋野美智子編『福祉政策とソーシャルワークをつなぐ』ミネルヴァ書房、2021年